

中村欣一郎市長の

# 山椒は小粒でも…

Vol.28

## のりはフランス生まれ？



テレビや新聞などでたくさんご紹介いただきましたが、10月7日から13日に海女文化のPRに観光協会とともにフランスのパリを訪問してきました。

数ある国の中からはなぜフランスを選んだかというと、鳥羽を訪れる外国人旅行者のうち、香港、台湾、中国に次いで、なんとフランスが第4位。アジアをのぞくと、欧米豪の中で最も多いのがフランスからのお客様なのです。

私は、ユネスコ日本政府代表部、在フランス日本国大使館など、主に政府機関を、鳥羽市観光協会(鳥羽磯部漁業協同組合、鳥羽商工会議所も一緒に)のみなさんは旅行代理店や、商工関係団体へのセールスを行いました。

そして、メインの鳥羽と海女文化を紹介する座談会を、エッフェル塔近くのパリ日本文化会館にて開催しました。石鏡の海女さんである大野愛子さ

ら、海女文化の研究の第一人者である三重大学の塚本教授らが登壇し、会場からの質問も尽きることなく、予想を超える関心の高さ・深さを感じたところです。



そのオープニングは、この訪問団の団長である私のあいさつからでした。実はどうしてもパリで試したいジョーク(フランスではエスプリと言います)があったのですが、みんなに反対され、通訳さんからも「市長、残念だけどそのジョークは伝わらないよ」と言われ、それが叶わなかったのが少し残念でした。

どんなジョークなのか？

次に紹介しますね。

1980年代のTVコマーシャルでこんなのがあったのを覚えておられるかたはいますか？

娘「パパ、OOOOのりってフランスでとれるの？」

父「どうして？」

娘「だって、パリっていうでしょ」

父「そうか…。今日もOOOOのり」

「OOOOのり」

父親役は、フランス出身のギタリスト、フロード・チアリスさん。私はこの小話で海藻売り出し中の鳥羽とフランスをほつりと結び付けたかったです。座談会ではその機会を作れませんでした。ごあいさつにユネスコ日本政府代表部を訪問した際には、この話をして鳥羽の味付けのりをお土産に手渡すことができました。

それはさておき、今回のフランスミツシオンを終え、多くの反響があるのは間違いないと思います。今後、鳥羽を訪れたフランスを含む外国人観光客のみなさんが、がっかりしないよう、受入体制の強化や支援を進めていかなければと感じています。

記念すべきフランスでの第一歩、10月8日はくしくも鳥羽の日でした！



Vol.186

教育委員会生涯学習課

☎ 1268

## 21世紀は「人権の世紀」

11月3日は文化の日です。

文化の日は、人権と平和・文化を重視した日本国憲法が公布された日を記念し、制定されました。人権は、わたしたちが人間らしく生きるための権利で、すべての人々に普遍的に保障されている基本的な権利です。しかし、わたしたちは「人権はややこしい、むずかしいもの」と思いがちです。そのため日常生活で、人権について意識したり考えたりすることをつい避けてはいないでしょうか。

普段過(こ)している日常生活を人権という視点から考えてみると、さまざまなかことが見えてきます。例えば、建物や段差で困っている車いすの人を見かけたとき、人権の視点で考えると、バリアフリーの大切さを実感します。そして、バリア

フリー社会を実現するために、個人、民間団体、地方公共団体、国などがそれぞれの立場で、何が必要でどうすべきかを考え、実行していくことが必要です。それは、女性や子ども、高齢者などのさまざまな人権についても同様です。人権は、いつでもどこにでもわたしたちとともにあるといえます。

21世紀は「人権の世紀」といわれています。この言葉には、二度にわたる世界大戦をはじめとして、多くの尊い命が失われたばかりか、さまざまな人権侵害となる状況が多く発生し「戦争の世紀」ともいわれた20世紀への反省が込められています。「平和のないところに人権は存在し得ない」「人権のないところに平和は存在し得ない」ということを再確認しようという考え方が根底にあります。

人権がいつでも、どこでも当たり前に尊重される社会を作ろうというのが「人権の世紀」です。しかし、これは誰かが作ってくれるものではありません。わたしたちがそれぞれの場所や場面で、価値判断の基準として人権を意識することで、「人権の世紀」が実現するのではないのでしょうか。